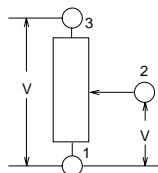


ご使用上の注意

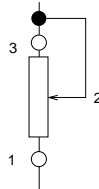
〔使用回路について〕

可変抵抗器は、図Aのように電圧調整形での使用をお勧めします。図Bのような電流調整形で使用の場合は、セット回路によって抵抗体としゅう動子の間の接触抵抗の影響を受ける場合がありますので、実使用条件にてご確認ください。

(図A) 電圧調整形

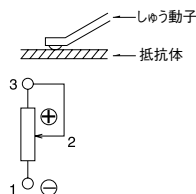


(図B) 電流調整形



〔抵抗器の配線について〕

しゅう動子に直流電流を流して使用した場合は、使用環境によって抵抗値が異常な変化を示すことがあります。これは、抵抗体が陽極酸化を起こし、抵抗体が損傷を受けるために発生する現象です。直流電流を流す場合は、抵抗体側をマイナス、しゅう動子側をプラスにしてご使用ください。



〔直流電圧の使用について〕

直流電圧を流して使用する場合は、使用環境によって端子間の絶縁が劣化することがあります。これは、マイグレーション現象によるものであり、直流電圧でご使用する場合はご相談ください。

〔出力側インピーダンスについて〕

電圧調整回路において出力側のインピーダンスが低い場合には抵抗体としゅう動子間の接触抵抗の影響を受けることがありますので、インピーダンスを公称全抵抗値の100倍以上に設定願います。

〔残留抵抗について〕

一般的に抵抗体の電極部は銀印刷により形成していますが、硫化に対する信頼性を向上するため、銀電極部にカーボンコートを行っています。

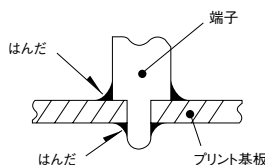
低残留抵抗値でご使用の場合は、ご相談ください。

〔結露について〕

可変抵抗器の抵抗体面などが結露したり、水滴が付着するような条件での使用はお避けください。絶縁劣化やショートの原因となります。

〔はんだ付けについて〕

図のように、プリント基板の上にはんだが流れ出てくるような配線やはんだ付けは、接触不良の原因となる場合がありますためお避けください。



ご使用上の注意

〔端子へのストレスについて〕

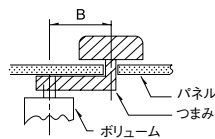
端子に過度のストレスが加わらないように取扱い、はんだ付け条件をご配慮ください。

〔操作部長さについて〕

取付け基板面からつまみを含めた高さは、極力短くしてご使用ください。高くなるほど、しゅう動感触に影響を及ぼすので実使用条件にてご確認ください。

〔操作部の駆動について〕

図のように、操作部の中心線より離れたところを作用点とする使い方は、可能な限り避けてください。B寸法が長くなるほど、しゅう動感触に影響を及ぼすので実使用条件にてご確認ください。



〔シャーシへの取付けについて〕

指定ねじより長いものは使用しないでください。移動量が短くなったりボリュームを破損してしまう原因となります。

上記、使用上の注意事項に関しては、

(社)電子情報技術産業協会 発行の技術レポートEIAJ RCR-2191A
電子機器用ポテンシオメータの注意事項ガイドライン
(2002年3月発行)

より引用しています。

詳細は、上記技術レポートをご参照ください。

ロータリ
ボリューム

スライド
ボリューム

多機能操作
デバイス

センサ

一般形

ミキサ用